

入生田菌類誌資料 No.013

エノキ裏うどんこ病菌

Pleochaeta shiraiana (Henn.) Kimbr. & Korf

宿主：エノキ *Celtis sinensis* Pers. var. *japonica* (Planch.) Nakai

子囊菌門 Ascomycota チャワソウタケ亜門 Pezizomycotina ズキンタケ綱 Leotiomycetes

うどんこカビ目 Leotiomycetes ウドンこカビ科 Erysiphaceae

供試標本

KPM-NC0016986, 2009年9月3日, 入生田紹太寺参道, 佐々木シゲ子・赤堀千里採集.

肉眼的特徴

葉の裏一面にうどん粉状の白い菌叢を生じる。

顕微鏡的特徴

分生子は20-29×5.5-9 μm、単生、長楕円形で基部と頭部がやや細くなる。分生子柄は長く基部で数回(2-4回)左巻きにねじれる。

ノート

観察できたのは分生子のみで閉子嚢殻は形成されていなかった。日本で記録されている *Pleochaeta* 属は、エノキ・ムクノキ裏うどんこ病 *P. shiraiana* 種である。野村(1997)によると分生子柄が長く、基部がねじれるのは日本産14属の中で *Pleochaeta* 属のみである。

参考標本

KPM-NC0016230, 2006年12月7日, 入生田博物館付近, 出川洋介採集.

文献

岸 國平編, 1998. 日本植物病害大事典. p.1117. 全国農村教育協会, 東京.

小林享夫・勝本 謙・我孫子和雄・阿部恭久・柿島 眞編, 1992. 植物病原菌類図説. p.86. 全国農村教育協会, 東京.

野村幸彦, 1997. 日本産うどんこ菌科の分類学的研究. p.245. 養賢堂, 東京.

担当：佐々木シゲ子
監修：小林享夫



図1. 葉裏の病徴.

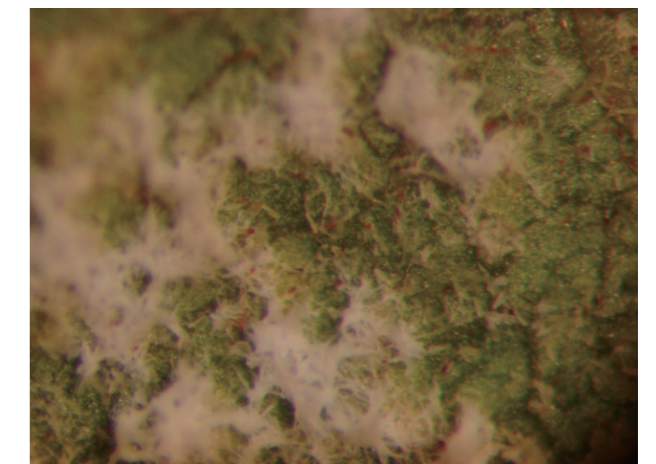


図2. 葉裏の病徴拡大.



図3. 葉裏の病徴.

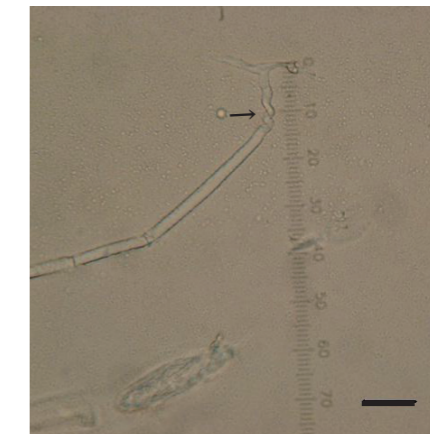


図4. 分生子と分生子柄(矢印部分：分生子柄の基部が数回ねじれる). bar: 10 μm.

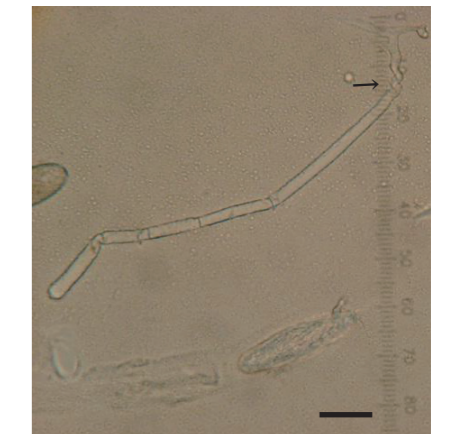


図5. 分生子と分生子柄(矢印部分：分生子柄の基部が数回ねじれる). bar: 10 μm.

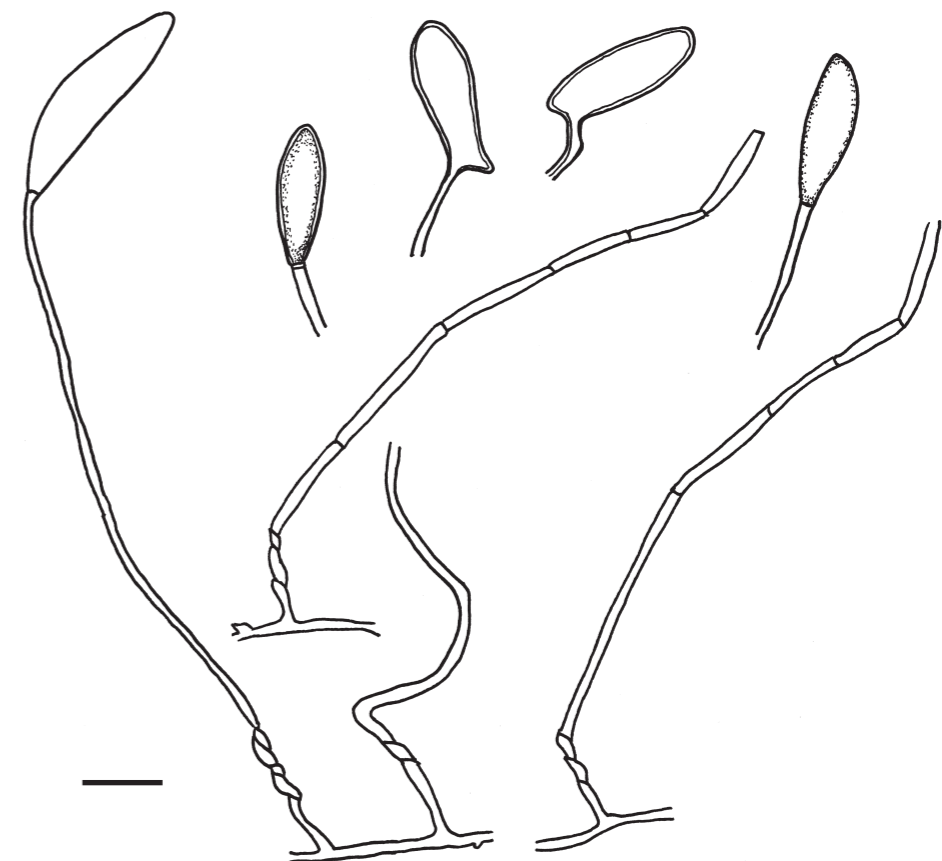


図6. 分生子(分生子柄の基部が数回ねじれる). bar: 10 μm.